

# 近畿中学総体(8/6・7 神戸総合運動公園ユニバ シアード記念競技場) RESULTS

1年男子100m	小森亮太郎	12:18(+0.7)	1組2着
	<準決勝>	12:19(+0.9)	1組5着
	<決勝>	12:39(-1.1)	8位

- 第63回近畿中学総合体育大会陸上競技。会場は神戸総合運動公園ユニバシアード記念競技場。今年の東雲からの出場者は1名のみ。100分の1秒差で女子低学年リレーが4位、男子低学年リレーも4位という悔しい結果をこの会場に来て、あらためて噛みしめることとなった。遠征はやはりリレーメンバーも含めて複数のご一行様で来るものです！他チームのリレメンが楽しそうにしているのを見ていると羨ましくて仕方なかったのです。それでも、まだあどけなさの残る1年生の小森が通信大会で優勝して、この大会に連れてきてくれたのです。毎年選手を連れてこの近畿大会にのぞめることに感謝の気持ちでいっぱいになります。1年生のこの選手を全国大会に出場して活躍するような選手に育てなければならないと思い、今一度、身の引き締まる思いで大会2日目の早朝に会場入りした彼の動きを見守った。
- 朝の第一次アップを見ると、彼の動きの良さが際立った。この大会に向けて3日の万博ナイターの後から疲労をとることを主眼に調整をしてきたことで、動きが軽くなった印象を受けたのだ。「体がよく動きます」と小森も同じような印象を持ったようだ。予選前のアップではスタプロをセッティングして、数本スタートダッシュを繰り返させたのだが、この技術も1年生にしてはかなりレベルが高い。彼はもともと地面のとらえがうまく、好調であれば接地時間も短くコンパクトに走ることができる選手である。プログラムのランキング表によると、彼のベスト記録12秒13は9位。1年生ながら11秒台の記録を持つ選手は4人もいる。12秒1~2秒の選手は8人もいて混戦である。「まわりの選手を気にせずに、自分のレーンに集中して自分の走りをやりきること」とアドバイスして彼を選手招集所へ送り出した。
- 10時40分、1年男子100m予選。全部で3組あって各組の3着までと4着以降の記録上位者3名が準決勝にすすむことになる。3組4レーンに小森が登場する。レーンに入り、入念にスタプロをセットして、ダッシュを1本入れる。彼の動きを遠くから見守ったが、落ち着いた振る舞いで安心して見る事ができた。スターターのピストルとともに小森は好スタートを切る。見事なスタートダッ



ユであった。中盤を過ぎて、大柄な選手が前に出るが、最後まで自分の走りを崩さずにそのまま2着でフィニッシュ。第2曲走路にある大型の電光掲示板を見ると、1着が11秒99、小森は12秒18。追い風0.7m。この大舞台で自己ベストに近い記録で走ったのだから、満点をつけてもいい素晴らしい走りであった。

- 「朝、何時に起きた？」彼が朝一番に会場入りしたときに聞くと、「4時半に起きました」と、事もなげに彼は答えた。スタートの6時間前に起きると、体がしっかり目覚めてよく動くことを彼はすでに知っていたのだ。小学生陸上の経験があるとは言え、自分でよく考え自分で判断できるクレーバーさに真面目さと勤勉さを併せ持っているのだ。こういった選手を指導する場合、指導者は（練習やアップを）やり過ぎないようにチェックすることに専念すればいいのだ。準決勝まではわずかな時間しかない。アイシングの指示をした後、ウォーミングアップ場に向かった。お決まりのように暑さがきびしい。アップを最小限に留めて、アドバイスもできるだけ簡潔にして選手招集所へ送り出した。
- 12時20分。1年男子100m準決勝。2組あって3着+2が決勝進出の条件となる。陸上の神様とお天道様にひとつお願いしなければならないことがあった。それは風である。小柄で軽量な小森にとって、ホームストレートの強い向かい風は何としても避けたかったのだ。この種目はやはり早熟で年齢の割に体が大きい選手が得するものである。もちろん、体格的に今はハンデがあったとしても、この大舞台でしっかりと自分の力を出し切って戦い切ることができれば、彼の大きな財産になることはわかっている。決勝に何とかすすめば、その財産がもっと大きなものになることも明白である。1組の4レーンに小森。6レーンにはランキングトップの持ちタイム11秒59の驚異的な記録を持つ兵庫の選手もいる。スターターのピストルでいっせいに飛び出した。小森のスタートダッシュも悪くない。いつもどおりである。案の定、中盤から兵庫の選手が飛び出した。フィニッシュライン手前。3着以降は混戦である。そのままだれこむように3人の選手が走り抜けた。祈るような思いで大型の電光掲示板を見つめる。11秒69、11秒94、12秒13、12秒18…。小森は5着。12秒19。追い風1.9m。数字上では決勝進出の可能性が残るものの、かなりきびしい状況となった。2組の4着の選手が12秒19の数字を上回った時点で小森は準決勝敗退となるのだ。やがて2組のレース。トップの選手は速報のデジタルタイマーで12秒05と表示された。その後のライブリザルツが表示される電光掲示板を見つめた。4着、12秒27。小森の決勝進出が確定した。2組の風が向かい風1.9m。陸上の神様とお天道様は、小森の真面目さをよく見ておられたに違いない。この土壇場で近畿大会決勝のレースをプレゼントしてくださったのだ。
- 13時20分、1年男子100m決勝。準決勝からわずか1時間のスパンしかないのだから、もちろんノーアップで



決勝にのぞませた。2レーンに小森。4～7レーンにはランキングどおり11秒台の4人の選手が並んでいた。この決勝レースは小森の勇姿を目に焼きつけようと、メインスタンドのフィニッシュライン付近に陣取った。ファンファーレが鳴って選手紹介。右手をあげて一礼する小森。この大舞台でも平常心を保つことができる彼の大物ぶりに舌を巻いた。号砲一発。8人の選手が近畿の1年生チャンピオンスプリンターの称号を目指してきれいなスタートを切った。思わず、息を呑んだ。低い姿勢で加速する小森がトップに躍り出たのである。40m付近までトップ。そのあとは大柄な11秒台スプリンターの4人が前に出る。フィニッシュライン手前10m付近で残りの4人が混戦となり、そのまま倒れこむようにフィニッシュラインを走り抜けていった。小森の順位がわからない。大型の電光掲示板を見つめた。小森は8着、12秒39。向かい風1.1m。7着とはわずかに100分の1秒、6着とは100分の3秒の僅差であった。最後の最後



に、風に嫌われたがよく走ったと評価している。これもまた陸上の神様とお天道様が大きなプレゼントをくださったのだと思う。「上にはまだまだ強い選手がいるのだ。もっともっと練習して、上を目指しなさい。強くなりなさい！」と激励しているのだ。決勝の向かい風も彼を大きく成長させる大きな糧となるに違いない。第2コーナーのスタンド後列に見える『夢輝け！大阪東雲中学校！！』の横断幕が風でかすかに揺れている。この横断幕が彼に引き連れられて、日本全国各地の競技場でたなびく日を楽しみにしたい。まずは横浜、秋のジュニアオリンピック目指して明日から輝いて練習していきましょう！！

